



説教	愛がなければ一切は無益である	森田 幸男	1
教会の課題	教会・伝道所の母なる教会としての中会	澤 正幸	2
新約聖書神学への招待	ルカ福音書2章49節をめぐって 第1回	住谷 真	3
■	旧日本基督教会の草創期—植村正久を中心に(1)		
	若き植村正久の伝道者としての自己認識	崔 炳一	4
目次	教会、この地とともに②③ 函館相生教会		
	地域に開かれた教会を目指して		
	～内の充実と、外に向けて発信し続ける教会～	寺田 麗子	5
■	三浦綾子の生涯と作品について (12)		
	愛の証しの文学『銃口』～人間として生きることと語ること	森下 辰衛	6
	第69回大会報告		
	「しかし、お言葉ですから」	傳 英二	7
	大会諸委員一覧		8
	教会ニュース		8



## 愛がなければ一切は無益である

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。」  
 (マタイによる福音書28章19節)  
 「愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。」  
 (コリントの信徒への手紙一13章4節)

もり た ゆき お  
 森 田 幸 男

◆主は弟子たちに、「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい」と命じておられます。この御言葉を聞く時、わたしたちはマルコ福音書16章15節の「全世界に行き、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(16章15節)との御言葉を想起し、教会に託された使命の尋常でないことを思い知らされます。中には海外伝道、世界伝道に思いを馳せる方もあると思います。勿論、主は、「すべての民」、「すべての造られたもの」一人一人を心に留めておられるのですから、それは当然であります。

◆しかし今、私たち日本キリスト教会が全体として直面している問題は、教会維持に関わる窮状を如何に克服するかということです。そうであるならば、そのような状況に置かれている教会の一員として、この主の御言葉をわが身に当てはめる時、一体主は、この私に何を求めておられるのかを熟慮し、示された道に歩まねばなりません。

◆私は昨年、非常に有難い経験をしました。教会員の88歳の姉妹を、8月に主の御許にお送りしたのですが、姉妹はその前年の秋に94歳の夫君を天に送られたばかりでした。年が明けて間もなくのこと、黄疸が出たので、近くの大病院で受診したところ、「膵臓癌」の末期で、余命数か月という診断を受けました。そして主治医から率直に、手術か、抗癌剤治療か、対症療法かの、3つの選択肢が示されました。その場で姉妹と話し合い、対症療法を選びました。そして退院し、家に近い診療所から、訪問診療、訪問介護を受けることになりました。そしてそこで、「介護福祉士」のKさんにお会いしたのです。

◆召された姉妹は単身ながら、非常に気丈な人でしたが、身体はみるみるうちに痩せ細って行きました。しかし、このKさんの実に行き届いた介護を受けることができたのです。姉妹は8月に召されましたが、私は、『葬儀の辞』において、「姉妹は地上の歩みの最後に本当に苦しい思いをされましたが、この様な介護を受けられたのですから、本当に幸いであったと思います」と、語らずにはいられませんでした。

◆私自身もK姉によって助けられ、大事な示唆を受けました。世間にはこんなに行き届いた介護をなし、またその患者さんに関わる周囲の者までも助け、励まし、支える事のできる人がいるのだと思い知らされました。そしてKさんは、その事を日々果しておられるのです。「自分は何をしているのか」と反省を迫られました。そしてパウロの原体験の表明とも言える『愛の讃歌』「愛は情け深い」に引き戻されました。正に、LOVE IS KIND!なのです。そしてKINDの極みは主の十字架です。

◆迫害者サウロが回心に導かれ、伝道者に変えられたのは、ダマスコのキリスト者アナニアが主に促され、サウロに「兄弟よ」と手を差し伸べたからです。自分の眼前にいる兄弟姉妹に手を差し伸べる事のない信仰に愛はなく、愛のない信仰に力はありません。愛がなければ一切は無益です。主イエス様が身をもってお示し下さった御愛、KINDだけが、そしてそのKINDに与かり、愛に生かされる者だけが、いつの時にも隔てを取り除く『和解の使者』たるを得るのだと思います。この新年、一層主の御愛に与る日々を歩ませて頂きましょう。

(大阪北教会牧師)